

27

定期健診受診者の歯間清掃用具の使用状況  
— 定期健診は保健行動の変容に果たして有効か? —

○中村譲治 筒井昭仁\* 堀口逸子

NPO法人ウェルビーイング \*福岡歯科大学予防歯科学講座

**要約:** 健康日本21の歯科部門の行動目標として定期健診受診率と歯間清掃器具の使用率を増加させることが掲げられている。この目標を達成するためにはかかりつけ歯科医の機能が重要となる。そこで定期健診受診は歯間清掃用具の使用率の増加に寄与しているかを確認するために予備的調査を実施した。調査対象は福岡市内の1診療所に歯周病の予防とメンテナンスのために3ヶ月毎に定期的に来院している成人90名である。調査は定期来院時に歯間清掃用具の使用状況を聞き取り法により行った。調査の結果、週1回以上歯間清掃用具の使用率は来院前の28%から72%へと増加しており、使用者の約半数が歯間清掃用具を毎日使用していた。健康日本21の歯周病に関する目標を達成するためには、かかりつけ歯科医の役割が重要であることが窺えた。(索引用語: 定期健診、保健行動、歯間清掃)

**目的**

健康日本21では取り組むべき健康課題のひとつに歯科を掲げている。その中で40、50歳の歯周病を現状より3割以上改善させることを目標の一つに加えている。その具体的な対策として

- 1 定期的に歯石除去や歯面清掃などの歯科保健サービスを受ける者の割合を3%から15%以上に
- 2 歯間清掃用具を使用している者の割合(40歳19.3%、50歳17.8%)を40%以上に
- 3 定期的に歯科健診を受けている者の割合を16.4%から30%以上に

増加させることを行動目標としている。これら3つの保健行動はお互いが相互補完的に影響しあいがら増加するものと考えられる。そのためには、まず定期健診の受け皿となるかかりつけ歯科医師の存在が必要である。次にかかりつけ歯科医による適切な健康教育やプロフェッショナルケアが提供されることが求められる。今回、健康日本21の目標を達成させるためのかかりつけ歯科医の役割を明確にするために予備的調査を実施した。予備的調査の目的は定期健診を受診することが歯間清掃用具の使用の向上にどの程度寄与しているかを明らかにすることである。

**対象と方法**

対象は福岡市内の1診療所に歯周病の予防のために1年以上ほぼ3ヶ月間隔で定期的に来院している成人である。この診療所では1989年より計画的に組み立てられた成人の歯周病予防プログラムが実施されている<sup>1)</sup>。定期来院希望者には初回時にプログラム全般の内容と、歯周病とその予防法および検査結果についてのオリエンテーションを実施している。定期来院時にはCPI、BOP、PIを測定しPMTCと健康教育および必要に応じて歯石除去を行っている。歯間清掃器具の使用については歯列の状態、BOPの改善度を参考にして状況に合わせた指導を行っている。2000年6月現在で定期来院者は350名で3ヶ月毎の来院率は80~90%である。今回これらの定期来院者の中、4月22日から6月10日までに来院した成人を調査対象とした。調査項目は年齢、性別、来院期間の他に来院前に・フロス・歯間ブラシ・糸楊子の各々の存在を知っていたか? 来院前に歯間清掃器具を使用していたか? 使用していた場合週に何回使用していたか? 現在使用しているか? 使用していた場合週に何回使用していたか? について聞き取りで行った。

**結果**

来院予定者の85%が実際に来院し、その全員から回答を得た。回答者数は90名(男性21名、女性53名)で男女の年齢構成に有意な差はなかった。平均年齢は43.6歳(SD=12.7、最大値77、最小値22)であった。定期健診の来院期間は平均5.9年(SD=3.1、最大値16、最小値1)であった。

## 1 歯間清掃器具の認知度について

この診療所を訪れる以前に・フロス・歯間ブラシ・糸楊子を知っていたかの質問に対して知っていたと答えた者の割合は、フロス80%、歯間ブラシ68.9%、糸楊子73.3%と高い認知率を示していた。

## 2 歯間清掃器具の使用状況について

定期健診を始める前の歯間清掃器具の使用状況と現在の使用状況を図1と表1に示す。



図1 定期健診前と現在の歯間清掃器具の1週間の使用頻度

表1 定期健診受診前と現在の歯間清掃器具の使用状況

使用回数/週	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
定期健診受診前	72.2%	6.7%	1.1%	4.4%	0.0%	1.1%	1.1%	13.3%
現在	27.8%	16.7%	6.7%	10.0%	1.1%	0.0%	2.2%	35.6%

定期健診開始前では歯間清掃器具を使用していた者の割合は27.8%であったのが定期健診を受けている現在では71.1%と顕著に増加していた。また週平均の使用回数も1.4回から3.5回に増えていた。表1に示すように、現在毎日使用している者の割合は全体の35.6%であった。

### 考察

調査結果では、定期健診開始前の歯間清掃器具の使用率が健康日本21で示してある現状の値の18%に比べ27.%と高かった。健康日本21で示された値は平成5年保健福祉動向調査のからのもので回答の選択肢は、使用しているか、いないかであり今回の調査のように頻度までは聞いておらずそのことも違いの要因のひとつと考えられる。また演者らの企業における調査の結果では歯間清掃器具の使用状況はいつも使う(4.9%)、時々使う(27.8%)を含めて32.7%であり、今回の調査結果と近値であり調査対象者の属性に大きな偏りはなかったと判断した<sup>2)</sup>。

今回の調査結果より定期健診は歯間清掃器具の使用の向上に寄与していることが示唆された。歯周病の改善と予防のためには適切なプロフェッショナルケアの提供とセルフケア能力の獲得のための健康教育が不可欠である。健康日本21の目標達成のために、かかりつけ歯科医の役割は大きく歯科医と歯科衛生士は効果的な健康教育の技法を身につける必要があると考えられる<sup>3)</sup>。

### 文献

- 1) 中村譲治、他：成人の歯周疾患予防管理システムにおけるCPITNの応用、口腔衛生会誌、40；436-437、1990。
- 2) 堀口逸子、他：ワークサイトヘルスプロモーション(WHP)の観点にたった産業歯科保健の取り組み-ブリーチドプロシードモデルに基づいた質問紙調査-、口腔衛生会誌、48；60-68、1998。
- 3) 石川達也、他：かかりつけ歯科医のための新しい歯科コミュニケーション技法、医歯薬出版、東京、2000。

連絡先：中村譲治、〒810-0041 福岡市中央区大名1-15-24、NPO法人ウェルビーイング  
TEL：092-771-5712 FAX：092-741-8037